

令和元年度環境とやま県民会議 事業報告

1 統一活動

私たちは、廃棄物などの身近な問題から地球温暖化をはじめとする地球的規模の問題に至るまで様々な環境問題に直面している。これらの環境問題に適切に対応し、本県の素晴らしい環境を次の世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりが、環境について学び、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、少ない資源、少ないエネルギーで生活する循環型社会と低炭素社会づくりを目指して行動していくことが求められている。

また、令和元年10月に開催された「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会の開催を契機に、県民総ぐるみのプラスチックごみの削減や海岸等での清掃美化活動を実施するなどエコライフの普及啓発や環境保全活動を積極的に展開する必要がある。

こうしたことから、当県民会議では、引き続き統一活動として「とやまエコ・ストア制度」の普及・拡大を図るとともに、とやま環境フェアなど各種イベントを開催し、県民のエコライフの定着・拡大を呼びかけた。

また、当県民会議では、「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」と「環境教育・環境保全活動の推進」を事業の柱とし、これらを中心として、県民、企業、民間団体、行政が情報を共有し、一体となって事業を展開した。

2 事業内容

(1) 循環型社会と低炭素社会づくりの推進

<循環型社会づくり>

①とやまエコ・ストア制度普及・拡大事業の実施

- ・主 催 とやまエコ・ストア連絡協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 とやまエコ・ストア制度登録事業者が県民と協働で行う環境配慮行動や富山の環境に関する情報をスマートフォン用アプリ等により県民に発信し、県民の環境配慮行動を促進するとともに、「とやまエコ・ストア制度」のさらなる普及・拡大を図り、県民のエコライフの定着・拡大を図った。
このほか、富山県ごみゼロ推進県民大会において、エコ・ストア優良取組事業所の表彰をした。
- ・登録状況 72社、1,086店舗・6商店街（令和元年9月現在）

一部新 ②いつでも、どこでもマイバッグ運動の実施

- ・主 催 とやまエコ・ストア連絡協議会、富山県、環境とやま県民会議
- ・実施時期 令和元年8月25日～31日（ノーレジ袋実践ウィーク）
- ・内 容 マイバッグを常に携帯することやコンビニ利用時のマイバッグ使用を習慣づけるため「ノーレジ袋実践ウィーク」を設け、モデル的に会社員の皆さんに実際にマイバッグ利用してもらおうとともに、レジ周りのポップなどでの啓発により、県民のレジ袋をもらわない意識の定着を図った。
- ・参加者 ノーレジ袋実践ウィーク 25社（28事業所）の従業員約900名

③循環型社会・低炭素社会づくりに向けたエコライフ推進事業

- ・主 催 富山県
- ・実施時期 令和元年6月22日(土) (エコライフ・アクト大会と併催)
- ・内 容 エコライフの実践・定着や清掃美化活動等の環境保全活動の促進を図るため、子どもにとっても分かりやすく、楽しめるような環境問題に関する講演会や、レジ袋削減取組み報告等を行った。
レジ袋削減15億枚達成報告&「いつでも、どこでもマイバッグ運動」キックオフイベント、トークショー、ゴミ拾いパフォーマンス 等

④食品ロス削減アクション拡大事業の実施

- ・主 催 富山県
- ・内 容 「使いきり3015」(毎月30日と15日に冷蔵庫等を確認すること)の実践を通して食品ロス削減の効果をより深く実感する機会を提供するため、家庭での食品ロスモニター調査(令和元年7月下旬~8月のうち2週間)や、手付かず食品を使った料理写真の募集(7月~9月)を行い、その成果を広くPRした。また、楽しみながら食品ロス削減に取り組めるサルベージ・パーティについて、講師として活動を希望する方をサルベージ・サポーターとして募集・認定し、開催を希望する団体等とのマッチングを行った(令和2年1月~3月)。
- ・実 績 食品ロスモニター調査:
611世帯参加 「使いきり3015」の削減効果を推計
(4人家族の場合、年間約15kg削減、約15,000円節約)
料理写真の募集:133名応募
サルベージ・サポーター:28名を認定し、料理学校などと計5回マッチング

⑤いつでも、どこでもリサイクル促進事業

- ・主 催 富山県
- ・実施時期 令和元年10月5日(土)
(とやま環境フェア2019で実施)【3R推進月間】
- ・内 容 富山県リサイクル認定制度の一つとして、民間事業者等による資源物の回収拠点をエコ・ステーションとして認定した。また、住民に啓発することで、資源物回収量のさらなる増加を促進し、再生利用率の向上を図った。
- ・認定数等 14民間事業者(66拠点)

⑥使い捨てプラスチック等に関する消費者意識調査

- ・主 催 富山県
- ・調査期間 令和元年7月4日~8月9日
- ・内 容 使い捨てプラスチック等の利用状況や削減意識について、アンケート調査を実施し、その結果を削減対策の検討に活用した。
- ・調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女1,500人
- ・回収率 666件(44.4%)

⑦とやま環境フェアの開催

- ・主 催 とやま環境フェア2019開催委員会
- ・実施時期 令和元年10月5日(土)、6日(日)【3R推進月間】
- ・会 場 テクノホール東館(富山市)
- ・内 容 水と緑に恵まれた富山県の豊かな環境を守るとともに、よりよい環境を創造するため、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成のための取組みを紹介するとともに、循環型・低炭素・自然共生をテーマとした各種展示や実演、発表等を行い、3Rの取組みなど環境保全活動の啓発を行った。
SDGsフォーラム、SDGsかるた、トークショー、パフォーマンス 等
- ・参加者 約11,500名

⑧ごみゼロ推進県民大会の開催

- ・主 催 環境とやま県民会議、富山県
- ・実施時期 令和元年10月5日(土)
(とやま環境フェア2019と併催) 【3R推進月間】
- ・内 容 廃棄物の減量化やリサイクルの推進に関する関係者の理解を深め、ごみゼロ社会への取組みを推進するため、功労者表彰や活動報告等を行った。
環境とやま県民会議会長表彰
ごみゼロ・リサイクル推進功労者 1個人2団体2事業所
地球温暖化対策推進功労者 2個人2団体
とやまエコ・ストア制度推進功労者 1事業所
- ・参加者 約100名

<低炭素社会づくり>

①エコドライブ推進運動の実施

(ア)エコドライブの推進

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団(富山県地球温暖化防止活動推進センター)
- ・開催時期 平成31年4月～令和2年3月
- ・内 容 二酸化炭素排出量の削減だけでなく、燃費向上や交通安全にもつながるエコドライブについて継続した実践を促すため、各種イベント等において普及啓発を行った。
併せて、エコドライブとやま推進協議会が募集しているエコドライブ宣言に協力し、エコドライブ実践者の拡充を推進した。

(イ)エコドライブ実践促進事業

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団(富山県地球温暖化防止活動推進センター)
- ・開催時期 令和元年10月5日、6日(とやま環境フェア2019と併催)
- ・内 容 気軽にエコドライブを体験できる機会を提供するため、とやま環境フェア

会場において、仮想的にエコドライブを体験できるシミュレーターを用いた体験会を開催するなど、エコドライブの一層の定着・拡大を推進した。

- ・参加者 約400名

②ノーマイカー運動への参加

- ・主催 富山県公共交通利用促進協議会
- ・実施時期 令和元年9月20日(金)【バスの日】～令和元年10月14日(月・祝)【鉄道の日】
- ・内容 公共交通の利用拡大と環境負荷低減を目的に実施される「県・市町村統一ノーマイカー運動」に参加することで、過度にマイカーに依存した生活を見直し、エコライフスタイルへ転換するきっかけとした。

③「COOL CHOICE」の普及促進

- ・主催 環境省、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団(富山県地球温暖化防止活動推進センター)
- ・実施時期 平成31年4月～令和2年3月
- ・内容 各種講習会や環境イベントを通じて、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択などの普及啓発を行い、地球温暖化対策に資する「COOL CHOICE(賢い選択)」の拡大・定着を図った。
併せて、各種イベント等において賛同登録者の募集を行った。

④クールビズ、ウォームビズ、うちエコ!の実践

- ・主催 環境省、環境とやま県民会議
- ・開催時期 夏季、冬季
- ・内容 夏のオフィスのエアコン設定温度を28℃とし、涼しく快適に過ごすために軽装(クールビズ)を実践する。また、冬のオフィスのエアコン設定温度を20℃とし、暖房に頼りすぎず、快適に過ごすビジネススタイル(ウォームビズ)を実践した。
さらに、クールビズ、ウォームビズの取組みをオフィスから家(うち)の中まで広げて「うちエコ!」の普及を図った。

⑤エコアクション21推進事業の実施

- ・主催 富山県、(公財)とやま環境財団(エコアクション21地域事務局)
- ・実施時期 平成31年4月～令和2年3月
- ・内容 中小企業向けの環境マネジメントシステムである「エコアクション21」制度の普及を図るとともに、「エコアクション21自治体イニシアティブ・プログラム」を実施し、事業者の認証・登録を促進し、持続可能な社会づくりを図った。
- ・認証・登録事業者:115事業者(令和2年3月末時点)

- ・自治体イニシアティブ・プログラム参加事業者：9事業者

(2)環境教育・環境保全活動の推進

①環境とやま県民会議総会、エコライフ・アクト大会の開催

- ・主催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・実施時期 令和元年6月22日(土)【環境月間】
- ・会場 グランドプラザ(富山市)
- ・内容 環境とやま県民会議総会を開催し、活動方針を報告した。また、同日、エコライフスタイルを推進するため、エコライフ・アクト大会を開催した。
- ・参加者 約210名

②エコライフ・イベントの実施

- ・主催 県内10市、富山県、(公財)とやま環境財団
- ・実施時期 令和元年5月～令和2年2月
- ・内容 地域での取組みを推進するため、県内10市において、地球温暖化防止やごみゼロなどのテーマに関する、「エコライフ・イベント」を実施した。また、構成団体ではブース出展等に積極的に参加し、エコライフの普及を図った。
- ・参加者等 43,602名

市	期間	テーマ	参加人数
富山市	5月23日～翌年1月26日	エコライフ・イベントの推進	9,937名
氷見市	6月2日(日)	氷見クリーン大作戦	1,000名
高岡市	6月6日～翌年2月18日	環境に対する意識の育成	4,265名
黒部市	8月25日(日)	エコライフスタイルの促進	3,900名
射水市	9月29日(日)	エコで育もう！豊かな自然豊かな心	3,500名
魚津市	10月19日(土)、20日(日)	できることからはじめよう 山から海 自然を守り 未来へつなごう 水・潤・飲(水循環)	2,500名
南砺市	10月26日(土)、27日(日)	エコビレッジ構想の普及啓発	200名
滑川市	11月2日(土)	環境問題	300名
小矢部市	11月9日(土)、10日(日)	地球温暖化防止	10,000名
砺波市	11月24日(日)	エコライフの推進	8,000名

③環境保全・環境教育に関する活動支援事業の実施

- ・主催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内容 (公財)とやま環境財団に環境保全相談室を設置し、各種相談に対応するとともに、県内で行われている様々な環境保全・環境教育活動について、ウ

ウェブサイト「エコノワとやま」を通じて情報発信し、環境保全・環境教育活動の拡大を図った。

エコノワとやま登録団体数：154 団体

④とやま環境未来チャレンジ事業の実施

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・開催時期 5月～12月
- ・内 容 10歳の児童が家族とともに10項目の地球温暖化対策に取り組む「とやま環境チャレンジ10事業」に、3Rの推進や食品ロスの削減などの内容を追加し、児童と家族の環境保全意識の高揚及びエコライフの定着を図った。
- ・実施小学校 県内各市町村の小学校 69校
- ・参加児童 3,022名

⑤スターウォッチング推進事業の実施

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・開催時期 令和元年8月2日(金)
- ・会 場 富岩運河環水公園 野外劇場前広場周辺
- ・内 容 大気汚染のない清澄な大気や街の明かりによる光害について理解を深めるとともに、身近な環境保全活動の実践を推進するため、星空観察会を開催した。
- ・参加者 約200名

⑥はじめてのエコライフ教室の実施

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・開催時期 令和元年5月～翌年1月
- ・内 容 幼児期から(家族ぐるみで)エコライフの理解・実践・定着を図ることを目的として、幼稚園・保育所等に地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣し授業を行う「はじめてのエコライフ教室」を実施した。(3項目・1週間)
- ・実施園数 10園
- ・参加者 388名(幼児316名、保護者72名)